

道 德

(12) 特別の教科 道徳

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 道徳科における見方・考え方を働かせながら、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実現に向けた工夫 (2) 言語活動の充実を図るための工夫 (3) ICT機器を活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) ねらいとする道徳的価値への方向付けを図ったり、学んだ道徳的価値を基に自らを振り返ったりするための工夫 (5) 道徳科の特質に応じた体験活動を生かした工夫や、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような工夫 (7) 他の教科等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容の配列、分量についての特徴 (2) 判型、分冊等、造本上の特徴 (3) 目次、索引、注、巻末資料等の工夫 (4) 特別な配慮を必要とする児童等への配慮

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	新訂 新しい道徳	2 東 書

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 様々な活動の中で積極的に議論することを促し、児童の多様な考えを引き出せるようにするために、児童の発達の段階を踏まえたジグソーパズル、学校新聞、漫画など、様々な素材や方法を取り入れた教材が配置されている。

〔例〕 1年P70～72「みつけてみよう」 3年P91～93「教えて！なんでもそうだん室」
5年P134～137「大きなじこをよぶ『ヒヤリ・ハット』」 など

- いじめ問題について全学年で取り上げられている。各学年とも、これからいじめについて考えるという示唆を与えるための「とびらのページ」、続けて直接的な教材、ねらいとする道徳的価値に迫る間接的な教材がユニットとして掲載されており、複数時間にわたり、深くじっくり考え、いじめをしない、許さない心を育てることができるよう配慮されている。ユニットは、目次のページで明示されている。

〔例〕 1年P46～52「いじめのないせかいへ」（とびらのページ）
「ダメ」（直接的な教材） 「こころはっぱ」（間接的な教材）
3年P29～36「いじめのないせかいへ」（とびらのページ）

- 「しょうたの手紙」（直接的な教材） 「いいち、にいつ、いいち、にいつ」 など
- 人権・福祉、安全・防災、国際理解・平和、食育、オリンピック・パラリンピック、キャリア教育など現代的な課題に対応した題材を各学年で取り上げ、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりできるよう工夫されている。また、情報モラルにおいては、発達の段階に応じて指導ができるよう配慮されている。さらに、インターネットについては、第4学年から第6学年までの各学年で異なる視点から扱い、学習が深められるよう工夫されている。

〔例〕 1年P110～112「いたずらがき」 2年P50～51「かむかむメニュー」
3年P148～150「ひみつの手紙」
4年P135～139「花丸手帳～水泳・池江瑠花子選手」
5年P164～166「その遊び方、だいじょうぶ？」
6年P18～19「しょうらいの夢を語ろう」 など

- 道徳的価値に根差した問題解決的な学習を取り入れ、児童が主体的に考え、判断し、意欲的に活動できるよう工夫されている。

〔例〕 2年P19～21「大すきな フルーツポンチ」 4年P104～106「お母さんのせいきゅう書」
5年P26～29「駅前広場はだれのもの」 など

- 他教科の学習や生活に関連づけて、伝統と文化を尊重することの重要性に気づくことができるよう、巻末に折り込みを使った紙面の付録があり、多数の写真や資料が掲載されている。

〔例〕 3年P156～159「つながる 広がる ―日本の四季と伝統文化」
4年P159～163「つながる 広がる ―きょうどに対する思い」
5年P171～175「つながる 広がる ―日本のゆたかな自然と伝統文化」 など

- 「美しいものに感動する心」を扱った教材が複数取り上げられている。

〔例〕 2年P88～91「七つのほし」 4年P92～95「花さき山」 など

- 自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの言語活動が充実するよう工夫されている。

〔例〕 2年P102～103「ありがとうカード」 6年P96～97「言葉のプレゼント」

- 各学年4教材ずつ、インターネットを活用した学習ができるよう配慮されている。デジタ

ルコンテンツを活用することのできる教材には、表紙裏の目次と、各ページに「D」マークが提示されている。

〔例〕 3年P22「ツバメの赤ちゃん」 4年P126～129「世界の小学生」
6年P136「タマゾン川」 など

○ 授業ごとに色を塗る「学習の記録」や、学習活動のページでの発言や考えたことをまとめる「学習のふり返し」「これからも かがやく自分に」「学習のまとめ」を設け、児童が自ら振り返って成長を実感できるよう工夫されている。

○ 各学年で家庭や地域活動に関する題材を取り上げ、家庭や地域社会の一員としての役割と責任の自覚が深められるよう工夫されている。

〔例〕 1～2年ふろく「つながる ひろがる」 3～6年付録「つながる 広がる」

○ 各教科での道徳性の育成につながる教材や学習活動が取り上げられ、関連が図られている。また、巻末の付録には、発達の段階に応じた歌や、各教科と関連した内容が掲載されるなど、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導ができるよう工夫されている。

〔例〕 1年P122「ちいさな せかい」（音楽科）

2年P134「なにに 気をつければ よいのかな」（生活科）

5年P172～175「短歌によまれた美しい自然」（国語科）

6年P189「活やくしている日本のスポーツ選手」（体育科）

○ 学習の案内をするキャラクター「こころん」を登場させ、気づきや疑問、考えのヒントなどを示すことにより、児童が自ら考えたり、これからの課題や目標を見つけたりできるよう工夫されている。

○ 写真やイラストに登場する人物について、性別による偏りがないように、また、身体的特徴の表現の仕方にも配慮されている。

○ 第1学年では、小学校入学前後の生活が紹介されている。また、高学年では、中学生になるにあたって自己の生き方について考えることを促す教材が取り上げられ、幼児教育・中等教育との関連が考慮されている。

〔例〕 1年P6～11「ようこそ、一ねんせい」 6年P156「夢」 など

2 使用上の便宜

○ 教科書の巻頭に、「気づく」→「考える・話し合う」→「ふり返る・見つめる」→「生かす」という学習手順が示され、その手順に沿って、考え、議論する道徳の学習を進められる構成になっている。

○ 児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、学習指導要領の四つの視点をマークで表したり、教材のタイトルの横にわかりやすい言葉で示した「学習のテーマ」を掲載したりするなど配慮されている。

○ 判型はA B判が使われ、さし絵や写真などの視覚的な資料が大きく掲載されており、児童の感性に訴えかけ、学習意欲を高める工夫がされている。

○ 環境に優しい再生紙や化学物質を抑えた植物油インキを使用するなど、環境やアレルギーに配慮されている。

○ 丈夫に綴じられており、紙面をしっかりと開くことができるよう配慮されている。用紙はしっかりしているが、低学年の児童でも扱いやすいよう、軽量化が図られている。

○ 本文は少し太めの字体が使用されており、学年段階に合わせて使用する文字の大きさ、字間・行数を調整するなど、読みやすさが配慮されている。小さい文字となる振り仮名には、ユニバーサルデザインの字体が使用されている。また、マークなどは、色分けだけでなく、デザインや文字によって判別できるよう配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	かがやけみらい 小学校道徳 きづき	11 学 図
	かがやけみらい 小学校道徳 まなび	

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 全学年において、巻頭に「道徳の学習を始めよう」が配置され、学習の進め方が示されている。さらに、続けて「学級づくり」のページが設けられ、道徳科の学習において、仲間づくりや集団づくりが進められるよう工夫されている。
- いじめ防止に関しては、各学年ともに、特に「公正、公平、社会正義」の内容項目において取り上げられている。いじめをなくすことや、周りの人との関係について深く考えさせたい教材には「ともにいきる」マークがつけられ、系統的に学びが深められるよう工夫されている。また、全学年、コラム「ともにいきる」が配置されている。
〔例〕 1年P91～93「おおい？ すくない？」 2年P18～21「およげない りすさん」
5年P100～103「しらんぷり」 など
- 全学年において、児童の具体的な生活の場に即した情報モラルに関わる教材が取り上げられている。例えば、SNSなど顔が見えない相手とのやりとりを扱った教材や、写真や動画など個人情報について扱った教材など、現代の情報社会におけるルールやマナーについて理解し、それらを守ろうとする態度が養えるよう配慮されている。
〔例〕 5年P50～53「たんていのつもりが…」 など
- 国際理解教育、食育、環境教育、防災・安全教育、キャリア教育など、多様な現代的課題に対応し、児童が幅広く興味や問題意識をもつことができるよう配慮されている。
〔例〕 2年P42～45「かえるのおり紙」 3年P94～98「おばあちゃんのおせち」
4年P118～119「姉妹で運ぶ物資と笑顔」 5年P66～69「サケをよぶ森」
6年P64～67「作業服のノーベル賞」 など
- 各学年スポーツに関する教材を取り上げ、様々な選手の生き方にふれることができるようになってきている。また、全学年にコラム「スポーツだいすき」が配置されている。
〔例〕 5年P44～49「今しかできないことをがんばって！」
「スポーツマンシップをみがく」 など
- 多様な人々とよりよい社会を築くために、それぞれの個性を認め合い、互いのよさを輝かせ合っている人々を扱った教材が多く取り上げられている。
〔例〕 3年P102～103「ようちゃんのはさみ」 4年P82～84「車いすをあやつって」 など
- 全学年で、伝統と文化を題材とした教材が取り上げられるとともに、巻末には日本の様々な地域が「ふるさとコラム」として掲載されている。
〔例〕 4年P134～135「ふるさとコラム わたしたちのお花見」 など
- 別冊「まなび」の発問は、児童が多面的・多角的に考えることができる問いや、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、教材の特性に適したものが配置されている。また、問う内容を明確にすることで、児童が自分の考えをもちやすいよう工夫されている。「自分の考え」と「友達の考え」を記入する欄が設けられ、児童が考えを比べながら、話し合ったり書いたりすることで、言語活動の充実が図られている。
〔例〕 1年別冊P10～11「きまりの よい せいかつ」 など
- 問題解決的な学習、体験的な理解については、別冊「まなび」に発問「やってみよう」が設置されている。また、話し合いや役割演技について、巻末に「まなびのヒント」として簡単な方法が示され、授業への導入がしやすいよう工夫されている。
〔例〕 6年別冊P8～9「誠実であること」 P50～51「まなびのヒント」 など

- 別冊「まなび」は、「自分自身のこと」「他の人との関わり」「身の周りの、大勢の人たちとの関わり」「命や自然、美しいものとの関わり」と、4つの視点ごとに再構成されており、児童が複数時間の学習をつなげ、積み上げ、学びを深められるよう工夫されている。また、項目ごとに構成されていることで、心の変容や成長を児童だけでなく、指導者も見取りやすくなり、教育内容の質の向上に向けたP D C Aサイクルが意識しやすいよう配慮されている。
- 別冊「まなび」には、自分や他の児童の考えを記録したり、地域や家庭のことで気づいたことを書き込んだりするページが設けられ、学校での学習を家庭と共有できるようになっている。
 - 〔例〕 2年別冊P28～29「みんなの ために」
 - 3年別冊P30～31「だれかのために、できることを」
 - 6年別冊P10～11「節度ある生活、安全な毎日」 など
- 別冊「まなび」の巻末に「保護者の方へ この教科書でめざすこと」のページが設けられ、学習内容が解説されており、家庭と連携を図って道徳性が養えるよう配慮されている。
- 全学年、全教材に二次元コードが配置され、スマートフォンやタブレットから、WEB上のコンテンツを簡単に利用できるようになっているなど、I C T機器を活用した学習活動が展開しやすいよう配慮されている。

2 使用上の便宜

- 読み物冊子の「きづき」と、活動冊子の別冊「まなび」の二部構成になっている。「きづき」本文には、内容項目、主題、発問の提示がなく、児童が自ら道徳的な価値や課題に気づくよう促されている。「まなび」には、各教材の題名の横にマークとともに内容項目が明記されており、「かんがえよう」「みつめよう」「やってみよう」などの活動内容を明確にする発問や振り返り欄があり、気づいたことを議論する対話的な学習から深い学びにつなげていくよう工夫されている。また、「まなび」は内容項目ごとに見開きにまとめられており、ポートフォリオとして児童が学びの深まりを長期的に見て実感できるよう工夫されている。
- 別冊「まなび」の「こころのパレット」は、低・中・高学年の1学年単位でタイトル名が統一され、同じ課題に対する発達段階の変化が見取りやすくなっている。
 - 〔例〕 内容項目 正直、誠実
 - 低学年 1 別冊年P8～9「あかるいところで」 2年別冊P8～9「明るい心で」
 - 中学年 3年別冊P8～9「すなおで明るく」 4年別冊P8～9「すなおで明るく」
 - 高学年 5年別冊P8～9「誠実であること」 6年別冊P8～9「誠実であること」 など
- 低学年教材では、分かち書き、文節改行が施されたり、学年配当漢字について全て振り仮名がつけられたりするなど、文章を読むことへの負担を軽減するよう配慮されている。
- ユニバーサルデザインの観点から、マークは色とデザインの双方で判断できるよう配慮されている。また、文字は発達の段階に応じた大きさが使用されている。
- 漫画を用いたり、SNSでのやりとりをイラストにしたりするなど、内容を理解しにくい児童にも場面の状況を把握しやすいよう工夫されている。
 - 〔例〕 2年P72～73「ゲームをしていたつもりなのに」
 - 4年P128～129「ちょっと待って」 など
- 別冊「まなび」には、開いたとき、ページとページの間に「のりしろ」のためのスペースが設けられており、自作プリントや関連資料等を使用した場合は、貼ることができるよう工夫されている。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用して製作されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教 出

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童一人一人が問題意識をもち、他の児童との学び合いを通じてより深く自己を見つめる主体的・対話的で深い学びを実現するために、「導入」→「展開」→「終末」の学習の流れとポイントが示されている。
- 考え、議論する道徳を実現するために、全学年の巻頭にオリエンテーションのページが設けられ、言語活動が適切に行われるよう工夫されている。また、「考えよう」や「モラルスキル教材」の中に設けられた「やってみよう」や、教材の前に配置された「拡大導入ページ」などに、自分の考えを書いたり、話し合ったり演じたりすることにより、言語活動が充実するよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年P36～39「なかなおり」 2年P62～65「きゅう食当番」
3年P58～61「どうしていけないのかな」
5年P10～13「心をつなぐあいさつ」 など
- いじめ問題について直接的な教材だけでなく、集団や社会との関わりを考える間接的な教材でも取り上げられている。教材は、児童の生活実態や発達の段階に応じて配置され、発展的に繰り返し学習することができ、考えを深めていくことができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 1年P76～79「ねずみくんの きもち」 2年P25～27「たかしくんも いっしょに」
4年P37～41「プロレスごっこ」 6年P25～29「友達だからこそ」 など
- 児童の発達の段階に合わせ、電話や学級新聞、メールなどを題材にした情報モラル教材が全学年に掲載され、個人情報への配慮や情報を扱う際のルール必要性を考えることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年P20～23「くまさんの おちゃかい」 4年P47～49「守りたい自分のじょうほう」
6年P38～41「食事中的メール」 など
- 食育、防災、法、健康、福祉、キャリア教育などについて身近な事例をもとに現代社会におけるさまざまな課題に向き合える多様な教材が取り上げられている。
 - 〔例〕 2年P67～69「とおるさんのゆめ」 3年P30～33「わたしたちの『わ』」
5年P18～21「ある朝のできごと」 6年P42～45「安全について考えよう」 など
- 巻末に「学習の記録」と「一年間の振り返り」が設けられ、書き込むことができるようになっており、児童が、学年末に自分の成長を感じることができるよう工夫されている。
- 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度などを育めるよう、全国のさまざまな教材が多数取り上げられている。
 - 〔例〕 1年P106～109「日本の ぎょうじ」 3年P46～50「エイサーの心」
5年P140～143「世界にひびく伝統の音」 など
- 歴史や文化、スポーツなどさまざまな分野で輝かしい業績を築いた人たちが取り上げられており、児童が生き方に憧れと共感を抱くとともに、自分の生き方について考えを深めていくことができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 1年P86～89「すきな ものを 見つけよう ー澤 穂希ー」
4年P92～97「ゆめに向かって泳ぐ ー寺川 綾ー」
5年P126～130「ブータンに日本の農業を」
6年P160～163「北海道の名づけ親 ー松浦武四郎ー」 など
- 自然を大切に、環境保全に寄与する心を養うことができるよう自然愛護を扱った教材が多く取り上げられている。

- 〔例〕 2年P6～9「春が いっぱい」
 4年P104～109「受けつがれてきた命 ー屋久島三代杉ー」
 5年P154～155「知床の自然」 など
- 学びをさらに深め、充実させることができるWEBサイト「まなびリンク」のURLや二次元コードが教科書の巻末に掲載されている。主に第3学年～第6学年の教材において、児童の興味・関心を高めたり、内容理解を助けたりすることができるよう工夫されている。
- 〔例〕 3年P10～13「おそろしいゲームいぞん」 4年P98～103「一步一步の積み重ね」
 5年P26～29「よさこいソーラン祭り」 6年P34～37「青い海を取りもどせ」 など
- 各学年で「家族と自分との関わり」について考えることができる教材が多数掲載されており、家族の一員として、その役割と責任の自覚を深めることができるよう工夫されている。
- 〔例〕 2年P108～109「せい長かいだん」 3年P42～45「わたしの妹、かな」
 4年P84～87「ブラッドレーのせいきゅう書」
 6年P92～95「生かされている『大切な命』」 など
- 学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントに対応できるよう、各学年の巻末に他教科や領域との関係が一目でわかる学習内容一覧が設けられている。
- 〔例〕 1年P102～105「七つの ほし」(国語科)
 3年P132～135「昔から味をつたえる野菜」(社会科)
 6年P98～101「百一才の富士」(図画工作科) など
- 教材文中の登場人物、写真・イラストなどについて、性別の偏りがないように配慮されている。
- キャラクター「とりどり先生」を登場させ、学習への導入、気づきや疑問など児童が考える際のヒントを示すことにより、児童の思考を促し、考えを引き出すよう工夫されている。
- 全学年、障がいのある人が描いた絵を巻末に掲載し、児童がパラリンアート活動に関心をもつきっかけとなるよう工夫されている。

2 使用上の便宜

- 全学年を通して、児童が無理なく学習できるよう教材内容が精選され、短い教材、見てわかる教材が多く取り上げられており、児童にとって内容がわかりやすく、考え、議論する時間が十分に取れるよう配慮されている。学年ごとの教材は、児童の発達の段階に配慮された内容(物語教材で学ぶ低学年、生活教材で学ぶ中学年、人物の生き方から学ぶ高学年)と文章量で構成されている。
- 学習指導要領に示されている四つの視点ごとに教材の色や絵柄を変え、領域の区別がしやすくなるよう配慮されている。また、各学年とも学期ごとに領域の偏りがないように、バランスよく教材が配置されている。
- ユニバーサルデザインに配慮した、誤読されにくい字体が使われている。また、発達の段階に応じた大きさの文字が使われており、字間・行間は適切で、児童が読みやすいようにデザインされている。
- その学年で学習する漢字については、全ての教材でその初出箇所に振り仮名がつけられている。固有名詞については、全て振り仮名がつけられており、児童の負担が軽減されるよう配慮されている。
- 印刷には、化学物質の使用を抑えた植物油インキを使用しており、アレルギーや健康に対して配慮されている。また、用紙には環境に優しい再生紙を用い、環境に配慮されている。
- 判型はA B判で、イラストや写真・図版等の視覚的な資料が大きく掲載されており、児童が興味や関心をもったり、学習への理解が深まったりするよう工夫されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光 村

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 一人一人の児童が自分自身の問題として捉え「自分ならどうするだろう、どう考えるだろう」という主体的な姿勢で学習に取り組むことができるよう、全学年の教材冒頭に、キャラクターによる児童への呼びかけの言葉が示されている。
- 一人一人が考えたことや感じたことを振り返るために、全学年を通して、教材末に学習のてびき「考えよう・話し合おう」が設けられ、自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなど多面的・多角的に考えられる発問が教材に応じて置かれている。
- 全学年を通して、さまざまな内容項目からいじめ問題に結び付く教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されており、いじめをしない、させない、見過ごさないための道徳性が系統的に育成されるよう工夫されている。
 - 〔例〕 2年P68～77「クラスの大へんしん」「およげないりすさん」「いやな気持ちかもしれないよ」
 - 4年P41～49「ひとりぼっちのYちゃん」「学級会での出来事」「いじめを見つけたら」
 - 6年P42～55「泣き虫」「この胸の痛みを」「いじめにどう向き合うか」 など
- 全学年を通して、発達の段階に応じ、情報モラルの内容を扱った教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されている。道徳科の特質を踏まえたうえで、情報モラルに関して深く考えることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年P127～132「みんなが つかう ばしょだから」「きまりをまもらないと」
 - 3年P17～23「やめられない」「インターネットにむちゅう」
 - 5年P18～23「あいさつって」「インターネット上のマナー」 など
- さまざまな地域教材や日本の伝統文化を取り扱った教材が、学年の発達の段階に即して、全学年に配されている。写真等の資料も多く紹介され、児童が日本の伝統に親しみ、国や郷土を愛する気持ちを育み、この国の文化や伝統の素晴らしさを実感するきっかけとなるよう工夫されている。
 - 〔例〕 2年P138～141「おせちのひみつ」 5年P124～128「曲げわっぱから伝わるもの」
 - 4年P128～P131「祭りだいこ」 6年P137～141「ようこそ、菅島へ」 など
- 第2学年以上の教材末の学習のてびきには、「つなげよう」が設けられており、他の学習や生活の中で児童に考えさせたいことが示されている。
 - 〔例〕 2年P21 4年P40 6年P110 など
- 児童が自己評価の記録を残す「学びの記録」が、各学年3か所に位置づけられている。「学びの記録」に記録された自分の考えや行動を振り返ることで、児童自身が変化や成長を自覚できるとともに、教師にとっても、長期的な児童の成長を評価するために有効に活用できるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年P36～38 2年P64～66 3年P72～74
 - 4年P66～68 5年P74～76 6年P82～84 など
- 第2学年以上の巻頭には、書いたり、読んだり、演じたりする活動に取り組みながら、主体的に考え、話し合うことが道徳の授業では大切であることを児童に示す「道徳の時間」が設けられており、考える道徳、議論する道徳となるよう工夫されている。
- 第3学年以上の長期休業日前に環境、国際理解を扱ったコラムを位置づけ、その中に「夏

休みに調べてみよう」「冬休みに調べてみよう」というコーナーが設けられており、児童が、長期休業日の間に自主的な学びに生かしたり、家庭での話し合いにつなげたりするよう工夫されている。

〔例〕 1年P35 「なつやすみの まえに」 3年P71 「夏休みに調べてみよう」
5年P151 「冬休みに調べてみよう」 など

- 全学年に「生命の尊さ」をテーマとした教材が3つずつ位置付けられており、生命の連続性、有限性などについて考えることができるよう工夫されている。

〔例〕 1年P16～17「みんな いきてる」 P45～47「いきて いるって」 P114～117「ちいさな ふとん」
4年P36～40「生きているしるし」 P54～60「いのちをつなぐ岬」 P104～107「生き物と機械」 など

- 系統的な学びにより児童の考えの深まりを促せるよう、内容項目の関連に配慮した教材の配列となるよう工夫されている。
- 異文化を理解し、世界の人たちと協力し合うことの価値が実感できるよう、世界の遊びや食べ物の紹介（低学年）、外国から来た人との交流（中学年）、歴史上の出来事を通した国と国との友好（高学年）など、児童の発達の段階に応じて、多様な教材が掲載されている。

〔例〕 2年P142～145「日本のお米、せかいのお米」
3年P131～135「マサラップ」 6年P182～187「エルトゥールル号」 など

- 教科書全般にわたって、教科書や挿絵に登場する人物や執筆者について、性別による偏りが無いよう配慮されている。また、人種・身体的特徴についても多様性に意を用い、人種に配慮した記述となっている。

〔例〕 1年P112～113「せかいのこどもたち」 3年P104～105「みんながくらしやすい町」
5年P33～35「公園のきまりを作ろう」 など

2 使用上の便宜

- 年間を3つのまとまりに分け、そのまとまりごとに重点的に学習する内容が設定されている。それぞれの視点に合わせた連続性ある学習が可能となるよう工夫されている。
- 文字の大きさや配置、写真や絵の色使いの他、枠組みを使ったデザイン処理など、ユニバーサルデザインの観点から、児童にとって理解しやすいよう配慮されている。
- 第1、第2学年では、児童の読みのつまずきを軽減できるよう、行頭に助詞がこないよう配慮されている。表記においては、第1学年は分かち書き、第2学年では3文節程度の分かち書きとしており、低学年児童の読みの負担を軽減するよう配慮されている。
- 第1学年では、数字以外は漢字表記とせず、平仮名が用いられている。第2～第6学年では、当該学年の配当漢字に全て振り仮名が付されており、全学年を通して読みの負担を軽減するよう配慮されている。
- 本文には、軽くて裏写りしにくい用紙を採用し、判型は、小学生が手に持ちやすく扱いやすいB5変形型である。
- 読み物教材の他にも、視覚的に児童の興味・関心を喚起する漫画形式の教材、見開きの1枚の絵などから考える教材が位置づけられている。いずれも児童にとって親しみやすく、新鮮な驚きを感じる絵や写真が掲載されている。
- 原料や製法については、環境への負担を少なくし、児童の健康にも配慮している旨が明記されている。環境に配慮し、光の反射を抑えた紙が使用され、エコマーク認定の植物油インキで印刷されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	1 1 6 日 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童の興味・関心を喚起させるだけでなく、人間の弱さとそれを乗り越えようとする強さや気高さについて考えることに重点が置かれている教材が多数取り上げられている。教材を通して、登場人物の生き方に学び、誇りある生き方、夢や希望など、喜びある生き方につなげていくことができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 4年 P80～83 「がむしゃらに」
5年 P4～7 「のび太に学ぼう」 P164～171 「かぜのでんわ」
6年 P166～169 「のぼさんの夢 -正岡子規-」 など
- 生命について、多面的・多角的に考えられる教材を配置して、生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を尊重することについて学ぶことができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 1年 P8～11 「うまれたての いのち」 P22～25 「つばめ」
5年 P8～11 「『命』」 P46～51 「ひとふみ十年」
6年 P100～103 「その思いを受けついで」 など
- 生命あるすべてのものをかけがえのないものとして尊重し、発達の段階に応じて児童が生命の尊厳について考えられるよう配慮されている。
 - 〔例〕 2年 P150～153 「生きて いるから」
4年 P4～7 「あなたの時間にいのちをふきこめば」
6年 P8～11 「命のアサガオ」 など
- いじめの防止が重要なテーマとして位置づけられ、多面的・多角的な視点から考えられるよう複数の教材が用意され、学級の状況に応じた授業を展開できるよう工夫されている。また、いじめの事象そのものの教材だけでなく、「相互理解、寛容」や「友情、信頼」、「生命の尊重」などの内容項目で取り扱う教材の中から人間関係や命の尊さなどをテーマとした教材と組み合わせ、集中的に扱う構成とすることで、いじめをなくそうとする心情や態度の育成が図られている。
 - 〔例〕 1年 P108～109 「やめろよ」
3年 P82～85 「たからさがし」 P144～147 「ダブルブックニング」
5年 P12～15 「あいさつ運動」 P136～139 「すれちがい」 など
- 情報モラルについては、児童の身近で起こりうる題材が取り上げられ、興味・関心をもちやすいよう配慮されている。
 - 〔例〕 2年 P28～29 「おにいちゃんの 電話」 5年 P142～147 「知らない間のできごと」
6年 P52～57 「カスミと携帯電話」 など
- 問題解決的な学習に適している教材は、教材のあとに「学習の手引き」が挿入されており、具体的な活動例や留意点などが示され、児童の体験をもとに考えを深められるよう工夫されている。
 - 〔例〕 3年 P6～9 「もっと調べたかったから」 5年 P26～29 「通学路」 など
- 家庭や学校を取り巻く郷土に関心をもつとともに、国や郷土に受け継がれる伝統と文化に親しむことを通じて、その素晴らしさや大切さを実感できるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年 P36～41 「にっぽんの おかし」
4年 P148～153 「浮世絵 -海をわたったジャパン・ブルー-」
5年 P68～71 「和太鼓調べ」 6年 P36～39 「ぼくのお茶体験」 など
- 考える、話す、聞く、書く、それぞれの活動の手助けができるよう、別冊「道徳ノート」

が用意されており、道徳科における児童の道徳性の成長の様子や学習状況を継続的に把握できるよう工夫されている。

- 児童に身近な人物やさまざまな生き方を教材として取り上げることで、自己をみつめ、人としての生き方について考えられるよう配慮されている。

〔例〕 2年 P70～73 「虫が大すき ―アンリ・ファーブルー―

3年 P124～127 「いちばんうれしいこと」

6年 P18～21 「それじゃ、ダメじゃん」 など

- 全学年の巻頭では学習方法が解説され、学習の支援になるよう配慮されている。学習方法は、「①気づく」→「②考える・深める」→「③見つめる・生かす」と示され、特に「②考える・深める」では、話し合い活動が具体的に写真で提示されている。

- これからの社会的課題に向き合い、子どもたちが自分のこととして考え、前向きに取り組むことができるような題材が取り上げられている。

〔例〕 3年 P128～131 「助かった命」 5年 P158～161 「ながらって」 など

- 世界を舞台に活躍する選手やそれを支える人々について考え、力強い生き方や苦しみを考えさせることができるよう工夫されている。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックと関連させた教材も複数扱われている。

〔例〕 1年 P42～45 「オリンピック・パラリンピック」

5年 P36～41 「ソフトボールに恩返しを ―上野由岐子―」

6年 P4～7 「スポーツの力」 など

- 伝記を扱った教材では、生きる勇気や知恵などを感じられるとともに、人間としての弱さを見せる姿なども表現され、生きることの魅力や意味などについて考えられるよう工夫されている。

〔例〕 3年 P172～175 「富士と北斎」 5年 P16～19 「マンガ家 手塚治虫」

6年 P120～123 「杉原千畝 ―大勢の人の命を守った外交官―」 など

- 児童も社会の一員であるという自覚をもち、互いに協力し合おうとする意欲を育むため、自分たちの学級や学校全体に目を向けさせるような教材が掲載されている。

〔例〕 3年 P60～63 「学級しょうかい」 4年 P106～109 「交かんメール」

6年 P58～61 「ぼくたちの学校」 など

2 使用上の便宜

- 学年ごとに、児童や学級の実態を踏まえ、1学期には学級づくりや学校生活・集団生活の充実（第1、第2学年）、オリエンテーションやよりよい人間関係の形成（第3学年～第6学年）、学年の後半には振り返りを意識した内容項目や教材が配置されている。

- 別冊「道徳ノート」が本冊にちょうど収まり、収納しやすい工夫が施されている。

- ユニバーサルデザインの観点から、スムーズに読み進められるように、まとまりで改行したり、教材タイトルの部分にあらすじを示したりしている。また、必要に応じて主な登場人物を整理して配置するなど、児童が読み取りやすいよう配慮されている。

- 児童が見通しをもって学習することができるよう、各教材にはすべて主題名が記載され、道徳的価値、または教材に関わる導入の発問例が示されている。

- 印刷には化学物質を抑えた植物油インキを使用しており、アレルギー等健康に配慮されている。

- 大きな判型（A B判）を採用し、見開きで見やすいページ構成となっている。通常の上質紙よりも軽い用紙が使用され、児童の負担を軽減するよう配慮されている。表紙には、生き生きと学習に取り組む児童の姿を写真で掲載し、児童の学習意欲を高める工夫がされている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	小学道徳 ゆたかな心	208 光 文

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 教科書の巻頭にオリエンテーションとして「さあ、道徳の学習が始まります」を配置することで、道徳の学習で「どういったことを、どのように学ぶのか」を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え理解し、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

〔例〕 全学年P2～9

- オリエンテーションの中で、「どうしてだろう」「なぜだろう」と、児童が常に問いをもって授業に臨むことの意味が示されている。各教材においても、導入で問いをもたせる活動や、教材内のキャラクターによる問いかけを通して、児童が教材を読む際に、自主的・主体的に問題について考える学習ができるよう工夫されている。

- 児童が学習後の振り返りができるように、巻末に自己評価シート「学びの足あと」が配置されている。授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、学期末や年度末の振り返りもできるように「まとめ」欄も設けられている。

- 「生命の尊さ」については、人権尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよりよく生きる喜びにつながるよう、重点主題として6年間の見通しをもって取り組めるよう工夫されている。

〔例〕 3年P43～51「自分のいのち」「いのちのまつり」「いただきます」

4年P153～157「みんなの命」「レスキュー隊」「五百人からもらった命」

6年P139～151（命かがやかせて）「生命のメッセージ」「命と向き合う人生」「負けないで」 など

- 各内容項目において、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題として捉えられるような教材が配置されている。また、本編教材のほかにも、全学年にコラム「みんな仲よし楽しい学校」を発達の段階に合わせて設置するなど、特に学校生活において、児童自らがいじめ防止などに主体的に関わる態度が育めるよう配慮されている。

〔例〕 6年P74～77「森川君のうわさ」 など

コラム「みんな なかよし 楽しい 学校」1年P130 3年P156 5年P144 など

- 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容を中心に、地域に根づく伝統や文化、行事、先人など、児童にとって身近なものや人物を題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことにもつながるよう工夫されている。

〔例〕 3年P74～75「郷土かるた」 4年P172～175「かつおぶし」 など

- 諸外国の生活や文化について紹介した教材を各学年に配置し、諸外国の文化や生活についてふれながら、その文化や生活を尊重し、親しみをもつことにつながるよう工夫されている。また、オリンピックやパラリンピックを題材にした教材やコラムが各学年に配置されており、選手の活躍や国際的な大会としての特色もふまえ、国際理解・親善にもつながるよう配慮されている。

〔例〕 4年P118～121「十六番目の代表選手」 P122～123「パラリンピックの競技」

6年P108～111「フーバーさん」 など

- 学校内における他学年との活動を題材とした教材を当該学年に配置し、双方の視点から連動した指導ができるよう工夫されている。

- 〔例〕 1年P16～17「がっこうたんけん」 2年P14～16「学校たんけん」 など
- コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動が提示されている。
 - 〔例〕 1年P32～33「おおきくそだてよう『ありがとうの き』」
2年P42～43「『きらきら』 み一つけた」
5年P44～45「ナイスリターン（思いを伝え合うには）」 など
 - 教材末尾には、考えたことをまとめ、授業後の生活に広げられるよう、「まとめる」「広げる」といった終末・発展の工夫が取り入れられており、挨拶や言葉遣いなどを具体的に実践し、そのよさや難しさを体験できるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年P12～13「あいさつで げんきに」
 - 家庭での出来事や地域との交流を描いた教材を取り上げたり、各教材末尾の「広げる」において家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示したりすることで、学習したことが児童の日常へつながるよう工夫されている。
 - 〔例〕 2年P106～107「かいらんぱん」 5年P26～29「助け合い傘」 など
 - 本編教材では、言語活動との関連もふまえ、教材を読むことで読書活動を行い、また、学習内容を広げるために、題材と関連する本を読む読書活動や考えたことをノートなどに書いて言語化する活動を「広げる」で提案している。また、コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、教材とも関連させることで、言葉のもつ力を実感できるよう工夫されている。
 - 〔例〕 3年P128～131「四人五きやく」 6年P124～127「誠実な人 一吉田松陰一」
5年P72～75「スイミー作戦」「ガンジー作戦」
コラム「ことばのたからもの」 1年P131 2年P143 4年P159 など
 - 学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい教材や、長く読み継がれてきた教材などが取り上げられている。
 - 〔例〕 2年P88～89「お月さまがみている」 3年P92～97「花さき山」 など

2 使用上の便宜

- 判型を大判化（A4変型版）にすることで、写真やイラストが引き立ち、児童の興味・関心や思考が深まるよう工夫されている。また、大判化による児童の負担軽減のために、紙の厚みを抑えて軽量化が図られている。
- 漢字は、前学年までに習った漢字の使用を基本とし、文節で改行を行うなど、読みやすさが配慮されている。
- 印刷には植物インキが使用されている。製本の際には、はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻繁に開閉しても破損しないよう工夫されている。
- 児童にとってなじみのない言葉やわかりづらいものについては、本文下の脚注で説明し、それらが思考の妨げにならないよう配慮されている。
- 〔例〕 4年P25「十さいのプレゼント」内の注釈「奥秩父」
5年P111「生きる力を引き出す笑い」内の注釈「ホスピス」
6年P104「これが日本」内の注釈「能楽」「和食」 など
- 学習時期と教材の内容の季節が一致するよう教材の順番を設定することで、児童が実生活に即して教材を捉えやすいよう配慮されている。
- 物語の登場人物の表示、総振り仮名（1～3年）など、教材の読み取りにかかる負担を減らし、授業で考える時間が増えるよう工夫されている。
- ユニバーサルデザインの観点から図版やグラフなどの配色について配慮されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	新・みんなの道徳	224 学研

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 多様な考え方が想定される課題を扱う場合には、一人一人価値観が異なることを前提に複数の意見を取り上げ、比べて考えさせたり、他者の意見を聞いた上で自分の考えとその理由を明らかにさせたり、児童が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。

〔例〕 1年P52～53「だれも 見ていない」 4年P60～61「友だちが泣いている」 など

- 児童が自分の気づきや考えを記入する欄が設けられ、自分の考えをもとに、話し合ったり書いたりする言語活動の充実が図られている。また、家庭と連携して学習を深めたい教材には、「お家の人からのメッセージ」の欄や「家の人に聞いてみましょう」という課題が設けられている。

〔例〕 1年P20～21「ぼくは、きゅうしょくとうばん」 4年P26～29「たな田が変身」 など

- 「いのちの教育」を重点テーマとして位置づけ、全学年で「生命の尊さ」の教材が3つ配置されている。さらに、低学年では「しっかり生きる」、中学年では「仲良く生きる」、高学年では、「ともに生きる」とテーマを設け、生命の尊さを重んじ、自立した人間として、他者とともによりよく生きる力を育むことができるよう工夫されている。また、各学年「いのち」と「生き方」の学習については、内容項目の異なる複数の教材を組み合わせたユニットで設定されている。ユニットは、目次と扉ページでわかりやすく明示されている。

〔例〕 4年P43～55「心の信号機」「泣いた赤おに」（生き方）

P123～131「ウミガメの命」「えがおのクリニックラウン」（いのち） など

- いじめ防止に関する教材が多数取り上げられ、他者を理解し尊重することなど、幅広い視点から学習できるよう配慮されている。また、自分の心と対話し、自分の生き方を考えることを目的とした教材も取り入れられている。

〔例〕 3年P126～129「言い出せなくて」 5年P36～39「いじめをなくすために」 など

- 全学年、情報モラルに関する教材がマークを付けて取り上げられている。学級新聞、インターネット、SNSなどを取り上げ、身近な社会的課題として、情報社会における問題点やマナーに児童自らが気づき、深く考えられるよう発問が工夫されている。

〔例〕 2年P132～135「みんなのニュースがかり」 5年P136～138「アップするの？」 など

- 情報モラルを含め、キャリア教育、国際親善など、現代的・社会的な様々な課題について、幅広く取り上げられ、児童が自ら問題意識をもつことができるよう配慮されている。

〔例〕 5年P140～143「この思いをフェルトペンにたくして」

6年P154～156「米作りがアフリカを救う」 など

- 国際理解につながる様々な国の文化や伝統、偉人に触れる教材が各学年に配置されており、児童が興味や関心をもてるよう写真も多く用いられている。

〔例〕 1年P108～111「サバンナの 子ども」

4年P74～77「つながっている日本と外国」 など

- 長い間読み継がれ活用されてきた教材で、歴史上の偉人や偉業から生き方を学ぶとともに、児童も知っているであろう今を生きる様々な分野の人々の生き方からも学ぶことができるよう、多種多様な教材が取り上げられている。

〔例〕 4年P10～13「レスリングの女王 吉田沙保里」

6年P62～64「どれい解放の父 リンカン」 など

- 4種類の学び方の特設ページが設けられ、児童が物事を多面的・多角的に考えられるよう

工夫されている。問題解決的な学習によって考えを深めるページ、体験的な学習活動で考えるページ、自分を見つめ、自分のよりよい生き方につなげるページ、教材に関連する追加情報により視野を広げるページがあり、多様な学びが進められるよう工夫されている。

- 〔例〕 1年P13 やってみよう「あいさつりレーをしよう」
2年P93 ふかめよう「マーくんの気持ちを考えよう」
3年P29 広げよう「紙しばいになった『目の見えない犬』」
6年P143 つなげよう「自分の進む道は自分で決める」 など

- 主題名を教材の冒頭に掲載しないことで、道徳的価値の概念的な理解ではなく、児童が自ら課題を見つけ、考え、議論する学習が進められるよう配慮されている。
- 全学年、自分を見つめる「自分のことを書いてみよう」のページと、学びを振り返る「心の宝物」のページがあり、1年間の自分の成長を感じられるよう工夫されている。
- 全学年、最初に「道徳の学習が始まるよ」のページがあり、道徳の学びとは何かを知り、児童が学習への見通しをもつことができるよう工夫されている。また、役割演技や話し合いの方法が簡単に紹介されており、学習の中で導入しやすくなっている。
- 体験的な学習として、「やってみよう」では教材内容をもとにした役割演技の方法が記載されている。また、演技をした児童と、演技を見た児童が感じたことをもとに話し合う活動への展開がしやすいようになっている。この役割演技の教材は、全学年に配置されており、6年間を通して繰り返し取り組めるよう配慮されている。

- 〔例〕 2年P17 「やってみよう かめさんたちになって、考えてみよう」
3年P13 「やってみよう 『ぼく』と中山君になって、考えてみよう」 など

- 他教科や様々な学校行事に関連させた教材を多く取り入れ、児童が自分の体験と重ねながら道徳的価値に気づくことができるよう工夫されている。

- 〔例〕 5年P160～163 「アルソミトラの空」(理科)
6年P16～19 「ひとみと厚」(算数、体育的行事) など

2 使用上の便宜

- すべての教材が、見開きで始まるようになっており、児童が集中して教材に向き合い学習が始められるよう配慮されている。
- 「わたしのこと」「あなたとわたし」「社会とわたし」「命や自然とわたし」の4つの視点ごとに色分けしたり、取り組み方がわかるマークなどを使用したりするなど、効果的に学べるよう工夫されている。
- 漫画や吹き出しなど、内容が理解しやすいよう配慮されている。特に、低学年の教科書では登場人物の言葉の上に、その人物の顔が描いてあったり、名前が書いてあったりするなど、読み取りが難しい児童にも、誰が言った言葉なのか、わかりやすいよう工夫されている。

- 〔例〕 1年P26～28 「きんのおのぎんのおの」 2年P52～55 「森のみんなと」 など

- ユニバーサルデザインの観点から、振り仮名が付けられたり、第1学年の教材文には分かち書きが取り入れられたりするなど、読み取りやすいよう配慮されている。また、児童が理解しにくいと思われる言葉については、本文の下に脚注として言葉や写真等で説明されている。さし絵や写真、図版などの資料は、A4判の誌面に大きく豊富に掲載されている。

- 〔例〕 1年P36～38 「みんなあかちゃんだったよ」 など

- 全学年を通して表紙には同じ登場人物が掲載され、教材の中にも繰り返し登場している。6年間を通して、登場人物とともに自分も成長していく構成になっている。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用して製作されている。

種 目	教 科 書 の 名 称	発行者の番号・略称
道 徳	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート	2 3 2 廣あかつき

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

- 児童が見つけた道徳的価値に根差した問題を、多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合ったり、道徳的価値のよさを理解したり、発展させたりできる教材が取り上げられている。
 - 〔例〕 1年 P34～35「みんなで つかう ばしょなのに」 3年 P60～63「森のげいじゅつてん」
5年 P33～37「グラウンドにひびく声」
6年 P32～35「さとの夏、みきおの夏」 など
- 生命の尊厳について考える題材により、自他の生命を尊ぶ心を育むことができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 1年 P32～33「じぶんで まもる あんぜんな まい日」
5年 P150～151「命とは、生きるとは、どういうことなのだろう」
6年 P158～159「命について考えよう」 など
- いじめの問題に関わる教材の取り上げ方については、発達の段階が考慮され、低学年、中学年では、仲間はずれ、友だち同士のトラブル等を題材としたものが扱われ、高学年では、いじめについて深く考えられるよう工夫されている。
 - 〔例〕 2年 P84～87「カメタの なみだ」 P92～95「森の ともだち」
3年 P18～21「貝がら」 P34～37「よわむし太郎」
4年 P53～57「同じ仲間だから」 P80～81「正しいことは勇気をもって」 など
- 情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載しており、中・高学年においては特集ページを設けて、他の教育活動とも関連を図りながら学習を深めることができるよう配慮されている。
 - 〔例〕 1年 P66～68「けいじばんの らくがき」
5年 P154～155「守ろう インターネットの世界のルールやマナー」
6年 P162～163「著作権とは何だろう」 など
- 国際親善や世界平和を希求する思いをもつことができる教材を掲載し、低学年では、写真を中心とした教材、高学年では先人の伝記を掲載するなど、発達の段階に応じて配慮されている。
 - 〔例〕 2年 P82～83「せかいは つながって いる」 3年 P104～106「青い目のお友だち」
5年 P144～148「明日をひらく橋 -西岡 京治-」 など
- 一枚の写真や一篇の詩、漫画や新聞記事をもとに考える教材など、読み物以外からも教材として取り上げ、児童の学習意欲を高められるよう配慮されている。
 - 〔例〕 4年 P65～67「一枚の写真から」 P97～101「ぼくの生まれた日」
6年 P84～85「客には言わんのですか」 など
- 家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や行事などを題材とした教材が掲載され、家族や地域を自分との関わりにおいて考えることができるよう工夫されている。
 - 〔例〕 1年 P40～43「目じるしの 木」 3年 P51～53「ぼくがいるよ」
6年 P50～52「高らかにひびけ」 など
- 現代的課題に関わる教材を通して、社会参画への意識が高められるよう工夫されている。
 - 〔例〕 4年 P128～129「だれもが住みよい社会に」
5年 P152～153「わたしたちにできる ボランティア活動」 など

- 身近にある現代的な課題についての教材が多く掲載され、自分との関わりで考えられるよう配慮されている。
〔例〕 2年 P54～55 「えんぴつは 何さい」 4年 P18～21 「ごめんね、オオキンケイギク」
5年 P48～51 「一ふみ十年」 など
- 授業を通して感じたことや考えたことを記述する書き込み欄や、一定期間のまとまりで授業を振り返りながら書き込みができる「心に残っている授業の記録」、教材ごとの学びを自己評価することができる「心のしおり」が配置されている。
- 先人の伝記や様々な分野で活躍する著名人、スポーツ選手等が取り上げられ、栄光の裏にある人知れぬ努力や苦悩する姿、幼少期の体験などから、児童が人物を身近に感じ、生きることの素晴らしさを感じられるよう配慮されている。
〔例〕 2年 P70～73 「自分で きめた ことだから -福原 愛-」
3年 P66～69 「きつとできる -高橋 尚子-」
4年 P110～113 「ふるさとにとどけ、希望の舞 -羽生 結弦-」
6年 P116～121 「兵後さんのパラリンピック」 など
- 児童の心を揺さぶり、より深い道徳的な思考へと導くよう、道徳の時間に長年活用されてきた教材が取り扱われている。
〔例〕 1年 P72～75 「はしの 上のおおかみ」 2年 P104～107 「きつねとぶどう」
3年 P4～6 「ヒキガエルとロバ」 4年 P114～118 「花さき山」 など
- 守り継がれてきた伝統や文化について取り上げ、児童が自己との関わりにおいて考えることができるよう工夫されている。
〔例〕 2年 P36～39 「ぎおんまつり」 3年 P38～41 「ふるしき」
6年 P20～24 「ヤリガンナ -西岡 常-」 など
- 高学年の別冊「道徳ノート」では自分の夢や目標、就きたい職業について記述するページや書き込み欄を設け、さまざまな体験活動やキャリア教育との関連を図ることができるよう配慮されている。
〔例〕 5年別冊 P7 「未来に夢や希望をもって」 6年別冊 P13 「将来の仕事を考えよう」
- 児童の体験を想起させたり、役割演技を促したりする問いや活動を「考えよう 話し合おう」や別冊「道徳ノート」に設け、道徳的な行為に関する体験的な学習が取り入れられている。
〔例〕 1年 P10～11 「みんなの はなまる」 2年別冊 P9 「気もちの よい ふるまいを」
3年 P90～91 「心と形が一つになって」
4年 P36～37 「真心を伝えるコミュニケーション」
5年 P7～9 「バスと赤ちゃん」 など

2 使用上の便宜

- 第1学年の教材では動物を登場人物とした物語教材を数多く取り上げ、視覚的に内容理解を促すよう工夫されている。
- 環境への配慮から印刷には植物油インキを使用し、用紙には再生紙を用いている。なお、別冊は本冊巻末に収納できる。
- ユニバーサルデザインの観点から、文字情報ははじめマークの形状やデザインの違いなどで、必要な情報が読み取れるよう配慮されている。
- 第4学年までは発達の段階に応じたわかりやすい表現を用い、第5学年以降は、児童が理解しにくいと思われる文言などに、必要に応じて説明を付けている。
- 当該学年の配当漢字を含む未習の漢字については、すべてに振り仮名が付けられており、読みの負担が軽減されている。